

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4094400019
法人名	有限会社 千寿園
事業所名	グループホーム 長寿の里 なかばる
所在地 (電話番号)	福岡県糟屋郡粕屋町大字仲原字十原1163-1 (電話) 092-939-2251

評価機関名	SEO (株)福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成21年10月27日	評価確定日	平成 21年 12月 10日

【情報提供票より】(平成 21年 10月 18日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成20年8月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 4人, 非常勤 7人, 常勤換算 6人	

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄筋	造り
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45000~45500 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000 円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,500 円		

(4) 利用者の概要

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82 歳	最低 75 歳	最高 94 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	吉田内科医院 栄光会クリニック 桑野歯科
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

電気店を経営されている代表が、社会貢献がしたいという想いで、佐賀県を拠点として介護事業を展開され、平成20年8月に“グループホームなかばる”を福岡県粕屋町に開設された。「ご利用者のためになるならいいよ」という法人の考えの基、運営への規制が少ないことで、職員は仕事に対して意欲的に取り組まれている。開設して1年が過ぎ、グループホームでのケアを経験したことのない職員が多い中、ご利用者主体のケアに向け日々努力を重ねてこられ、少しずつだが結果として現れてきている。ホーム周辺のお散歩を日課に取り入れ、趣味の手芸をして頂いたり、おしゃれが好きなご利用者を美容院へお連れするなどの支援が行われている。料理の得意なご利用者が職員を指導される場面も見られ、お互いに協力しながら日々の生活を送られているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>今回が初めての外部評価である。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回、初めての自己評価を行った。まず運営者(管理者)から全職員に対して評価を行う目的が説明された。全職員に自己評価、外部評価への理解と協力を求め、開設当初から勤務する職員に自己評価票を記入してもらい、管理者が一つにまとめた。職員に自己評価票を記入してもらい、ホームとしての課題を再認識できた。一人ひとりの出来ていないことへの反省につながり、早速改善に向けた取り組みが開始された。</p>
重点項目 ②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>ご家族、区長、民生委員、地域包括支援センターの職員、訪問歯科の医師、薬剤師の方等に参加して頂き、3か月に1回開催している。開所からの入居状況や事故報告、ホームの行事の報告が行われた。ホームが抱えている課題についての意見交換も行われている。参加者の方々からは、災害時の公民館活用や新人職員の離職防止へのアドバイスなど貴重なご意見を頂いている。会議の場を活用して、訪問歯科の医師から“口腔ケアの大切さ”や“誤嚥性肺炎の原因”などについてのお話も頂いた。民生委員さんからは、地域の方々にはホームを紹介するためにパンフレットをもらいに来て下さるなどの支援も頂いている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)</p> <p>ご家族の面会時に、ご利用者個々に合わせた報告を管理者が行っている。『なかばるの里通信』をご家族に配布し、遠方にお住まいのご家族には、請求書を送るときにお手紙を添えて郵送している。家族会も年2回開催されており、食事を兼ねた顔あわせの機会が設けられている。ご家族来訪時には、職員もしくは管理者に遠慮なくご意見や要望を申し付けて頂くようにお話している。ホーム内には意見箱が設置され、ご家族からのご意見やご要望等は、ホーム会議で話し合い、具体策を検討し会議録に残している。</p>
重点項目 ③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>開設から1年が過ぎ、ご近所の方々と挨拶を交わしたり、相談を受けることもある。また、散歩中に近隣の方から、庭のお花を頂くなどの関係が出来てきた。今年の7月には自治会に加入し、地域の敬老会やお祭りに参加している。地域の消防訓練にも参加させて頂く予定にもなっている。ご利用者と一緒に買い物に行きご利用者のお友達と会って立ち話したり、近所の方の要望でホームの駐車場をお貸したこともある。地域の行事や保育園との交流等も行ってきたいと検討が行われている。</p>
重点項目 ④	

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム開設前に職員が集まって頂き、「どういうホームをめざしたいか」を全員で話し合い作られた理念である。法人である千寿園の理念「福祉・介護に愛と笑顔を抱き、共に暮らします」を基本として、「明るく、優しく、笑顔で、共に想い、支えあいます」をホームの理念として掲げられた。ご利用者が住み慣れた地域で、地域の方との交流を支援していきたいという地域密着型サービスとしての役割が込められている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の申し送り時に理念を唱和し、ホームの会議や新人職員のオリエンテーション時にも管理者が理念についての説明を行っている。介護経験の少ない職員やグループホームでの介護経験のない職員が多く、ご利用者に対する言葉遣いやご利用者主体のケアなどについて、管理者が日々指導を行っている。長年、社会貢献してこられたご利用者に対し、感謝の気持ちを持ってケアに取り組む姿勢が徐々に見られるようになり、引き続き指導が行われている段階である。	○	管理者は、ご利用者と職員が、「明るく活気に満ちあふれた楽しい毎日」が送れるようになってほしいと考えられている。管理者の指導の基、職員がご利用者への言葉かけを言い直される場面も見られ、理念の共有が図れてきていると感じている。理念の実践に向け、「ご利用者に目を向けること」を指導されている段階である。新しい職員も、ご利用者との対応に戸惑いやカルチャーショックを感じたと言われるも、理念に基づいたケアの実践に向け日々努力をされており、今後の取り組みに期待していきたい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	開設から1年が過ぎ、ご近所の方々と挨拶を交わしたり、相談を受けたり、散歩中に庭のお花を頂けるなどの関係が出来てきた。今年の7月には自治会に加入し、地域の敬老会やお祭りに参加し、敬老会では地域の方々が「私たちに任せて」といって下さり、ご利用者のお世話を1日して下さった。地域の消防訓練にも参加させて頂く予定にもなっている。ご利用者と一緒にお買い物に行きお友達と会って立ち話したり、近所の方の要望でホームの駐車場をお貸したこともある。	○	開設されて2年目ということで、徐々に地域の方々との交流が深まりつつある。地域の行事への参加や保育園との交流も行ってきたいと職員は考えられている。ご利用者が地域の一員として地域の活動に参加できることで、更なる交流促進につながることを思われ、今後の更なる取り組みに期待していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回、初めての自己評価を行った。まず運営者(管理者)から全職員に対して、評価を行う目的を説明した。全職員に自己評価、外部評価への理解と協力を求め、開設当初から勤務する職員に自己評価票を記入してもらい、管理者が一つにまとめた。自己評価票を記入してもらったことで、ホームとしての課題を再認識でき、出来ていないことへの反省につながり、早速改善に向けた取り組みが開始された。	○	今回初めての外部評価ということで、今後、自己評価、外部評価の結果を活かし具体的な改善に職員全員で取り組んでいきたいと管理者は考えられている。ホームの質の向上につながることを期待していきたい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族、区長、民生委員、地域包括支援センターの職員、訪問歯科の医師、薬剤師の方等に参加して頂き、3か月に1回開催している。ご利用者の状況を報告したり、ホームが抱えている課題について意見交換が行われている。参加者の方からは、災害時の公民館活用や新人職員の離職防止へのアドバイスなど貴重なご意見を頂いている。会議の場を活用して、訪問歯科の医師から「口腔ケアの大切さ」や「誤嚥性肺炎の原因」などについてのお話も頂いた。民生委員さんからは、地域の方々にホームを紹介するなどの協力も頂いている。	○	今後は、運営推進会議に職員とご利用者の参加を検討されている。参加されている地域の方々との交流の場にもなり、参加者にもホームの現状を更に理解して頂けるものと思われる。今後の取り組みに期待していきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂いた時に、ホームのケアの統一性や職員の定着についてなど相談し助言を頂いている。粕屋町で最初に開設されたホームで、なかなか満床にならなかったということもあり、運営を心配して下さり、「どうですか？」と声をかけて下さったり、相談のあったご家族にホームを紹介して下さった事もあった。インフルエンザの事など、何でも気軽に相談できる関係が築けており、市の職員とともにサービスの質の向上に取り組んでおられる。	○	ホームの広報誌を作成して、役場に持って行く予定となっている。役場の担当者や、継続した取り組みが行われていくことを期待したい。
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在、制度を活用されている方はおられない。前管理者が、一名の方に成年後見人制度について説明をされたが、他のご利用者やご家族への説明はまだ行われていない。ホームに説明用のパンフレット等ははまだ備え付けられておらず、職員と制度に関する話し合いも現在のところ行われてはいない。	○	ご利用者やご家族から相談があった時に備え、制度に関する勉強会や外部研修等に参加されてみてはどうか。また、ご利用者やご家族に対し、必要時に制度を活用して頂けるようにパンフレットをお渡ししたり、ご家族が集まれる機会を利用して、制度に関するおおまかな説明をされてみてはどうか。必要な方がいつでも制度を活用出来るような取り組みに期待していきたい。
4.理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	季節発行の『なかばるの里通信』をご家族に配布し、遠方にお住まいのご家族には、請求書を送るときにお手紙を添えて郵送している。近隣にお住まいのご家族の面会は多く、面会時にご利用者個々に合わせた報告を管理者が行っている。家族会も年2回開催されており、食事を兼ねた顔あわせの機会が設けられている。金銭管理については、立て替え制にしており、請求書を送っている。面会に来られるご家族に対しては、職員の異動の説明が行われている。	○	ご利用者個々人に合わせた報告を行っているが、遠方にお住まいのご家族への報告を更に充実していきたいと管理者は考えられている。遠方のご家族にも安心して頂けるような取り組みに期待していきたい。
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族来訪時には、ご意見、ご要望等を伺い、「ご家族のご意見が職員の日々の励みになります」と説明し、職員もしくは管理者に遠慮なく申し付けて頂くようお話ししている。また、今回の自己評価後、ホーム内には意見箱が設置された。ご家族からのご意見やご要望等は、ホーム会議で話し合い、具体策を検討し会議録に残している。年2回の家族会が開催されたが、運営に反映するようなご意見は聞かれなかった。	○	管理者は、遠慮されてご意見を言われぬご家族や遠方にお住まいのご家族からの真の思いを汲み取っていきたくと考えられている。ご家族の意見が反映され、ご利用者、ご家族ともにホームでの生活がさらに暮らしやすい場になるように今後の取り組みに期待していきたい。
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者(管理者)は、馴染みの関係の大切さを理解しているが、開設後、新規採用のパート職員の退職が続き、管理者が個人面談を行い相談に応じている。職員の休みの希望には極力応じるようにしている。職員の動向を気にされるご利用者には、前もって職員の異動や退職等の説明を行っている。離職時のご利用者へのダメージを防ぐために、新規職員から受ける介護や声かけが、出来る限り従来と変わらないようにするため、新規職員への情報提供や指導を行っている。	○	管理者は、新規採用の職員の退職が多いことで、運営推進会議の参加者に相談するなどの取り組みをされている。退職の原因について、職員全員で話し合い新規採用の職員の育成について検討されてみてはどうか。退職者が少なくなることを期待していきたい。
5.人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	運営者(管理者)は、職員の採用にあたって、性別、年齢、宗教、出自等を理由に採用から外すということはない。“やる気、明るさ”を重視して管理者が面接し、職員の意見も伺い採用している。職員が“こういうことをしてみたい”ということには制限せず、職員のやる気を大切に実行してもらっている。職員から進んで「花壇を作って花を植えた」、「散歩を日課に取り入れたい」などの活発な意見も聞かれている。お休みの日にボランティアで出勤する職員もおられる。職員が得意とする料理やレクリエーション、手芸やボイラーの修理など個々の力を發揮して頂いている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	運営者(管理者)は、年長者であるご利用者の人権を尊重し、日々の業務の中や会議の場等で、ご利用者の人権について職員に伝えている。長年、社会貢献して来られたご利用者に感謝すること、ご利用者が自己表現できる場を作っていく、言いたいことが言える生活の場にしたいということを職員に説明している。ご利用者に対する職員の声かけの仕方など、改善が見られてきているが、“お世話してあげている”という、職員優先の考えが完全に抜けきれていない職員もおられ、継続した指導が行われている。	○	管理者による指導と合わせて、認知症の方の人権に関する外部研修の受講や勉強会等の実施も検討されてみてはどうか。今後の取り組みに期待していきたい。
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム開設から1年が経過し、管理者は個別に職員の育成に取り組んできた。職員の希望で認知症介護実践者研修に受講して頂いたが、職員の交代も多く内部研修等を行うまでには至っていない。法人として、勤務として外部研修の受講を薦められており、少しずつ受講できるように支援していきたいと管理者は考えられている。	○	ホーム開設から2年目に入り、職員一人ひとりの能力や経験年数、習熟度に応じた育成への取り組みに期待したい。職員一人ひとりの目標を確認し、まずは勉強会の開催や外部研修の受講等を計画されるなど、今後の取り組みに期待していきたい。
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者(管理者)は、同業者との交流・連携の必要性を認識しており、病院の関係者や老健職員からの見学の依頼に応じられている。地域の他事業所への挨拶に行く程度で、交流までには至っていない。	○	管理者は、町が主催するケアマネ研修会等への参加を担当者にお願ひされている。職員も含め、同業者の方々と交流する機会を持つことで、ケアに対する視野を広げ、よりサービスの質の向上につなげていけることに期待していきたい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご利用者が馴染みながらサービスを利用して頂けるよう、利用開始前に管理者が自宅や病院を訪問し馴染みの関係を作っている。入居前に、ご本人にホームを見学して頂き、ホームの雰囲気を確認してもらっている。ご本人は一人で生活できると思っておられたため、先に入居して頂いているご主人様のお世話を頂きながら体験入居をして頂き、時間をかけて少しずつ入居のお話をいき、納得の上入居して頂いたケースもあった。入居後も孤立されないように、話の合う他のご利用者の近くに座って頂いたり、ご家族に「時間を気にせずいつでも面会に来てください」とお願ひをしてご家族にも協力してもらっている。		
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、経験豊富なご利用者から料理を教えて頂いたり、会話の中で昔の風習などを教えてもらっている。夜間帯や排泄介助、入浴介助の時に励ましの言葉をかけて頂いたり、「早く結婚して子供を産みなさい」と助言して頂くこともある。ご利用者に教える場面を意識して積極的に作るために、ご利用者とのコミュニケーションや関わりを多く持つようしている。職員は、ご利用者から伺う昔の話や日々の出来事を通して、ご利用者の心の悲しみや喜びを共に感じている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	計画作成担当者を兼ねた管理者は、ご利用者との日々のコミュニケーションや会話の中から、「どのようにしたい…こうしたい…」という、ご利用者の思いや意向を把握するように努めている。特に入浴時間やソファで寛いでおられるときにお話を伺うことが多い。意思表示が困難なご利用者に対しても、職員から情報収集したり、ご家族から話を伺いお1人お1人と向き合い、思いを汲み取る努力を続けている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	管理者は、ご家族やかかりつけ医にご意見を伺い、ケアカンファレンスの中で職員と協議して計画を作成している。課題や目標の欄には、ご利用者の意向を反映した内容が盛り込まれているが、短期目標が漠然とした内容になっているプランも一部見受けられる。『ご利用者自身の介護計画』という視点で作成しているが、町の担当者から「ご利用者の視点に立った計画作成を」との助言も頂き、検討が行われている。ご利用者やご家族に、とても分かりやすい表現で記載された内容となっている。	○	地域との交流も徐々に増えてきている状況にあり、「地域で暮らす」という視点で計画に盛り込まれると共に、短期目標を達成しやすい内容に記載されることで、ご利用者の持つおられる力が更に発揮されるのではないかと考えられる。更なる取り組みに期待していきたい。
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ご利用者、ご家族、必要な関係者の方々の意見を伺い、3ヶ月に1回、計画の見直しが行われている。月に1回のケアカンファレンスでは要望や状態、ケアの見直し等についての検討も行われている。状態に変化が見られた場合や新たな気付きやご意見が出された時は、それらを介護計画に反映させるために、臨機応変な計画の見直しも行われている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご利用者の要望に応じて、ご家族の協力も頂きながら、個別のご希望に合わせた通院介助や買い物、ホーム周辺の散歩等の外出支援を行っている。外泊時には、薬の準備に合わせご家族に薬の管理方法などの説明もされている。また、ご利用者が入院した際には、職員がお見舞いに行き、病棟の看護師に状態の経過をお聞きし、ご家族に代わって洗濯の代行が行われている。週1回は医師に往診して頂き、2名のご利用者は訪問看護を利用して頂いている。	○	近々、ホームの同敷地内にグループホームの開設が予定されており、お互いに協力しながら事業所の多機能性を活かした柔軟な対応をもっと行っていきたいと考えられている。更なる取り組みに期待したい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関に医師が週1回往診して下さることもあり、ご利用者、ご家族に説明してかかりつけ医を決めて頂いている。往診以外の事業所の協力医療機関については職員が通院介助を行い、個別のかかりつけ医については、可能であればご家族に通院介助をお願いしている。ご家族が通院介助をされた場合は、ご家族から報告を頂き、ご利用者の状態の把握に努めている。受診結果や往診結果は、ご利用者に状態の変化のあった場合は速やかに報告し、変化がない場合でも来訪時やお電話にてご家族へ報告している。	○	職員は、協力医療機関の医師にいつでも相談できるような体制を希望されている。本社の担当者に相談しておられるということで、今後、気軽に相談でき、柔軟に対応して頂ける医療機関との連携が図れることを期待していきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームとして、終末期の対応も行う予定で、訪問看護を利用されておられるご利用者もおられる。重度化した時や終末期にどう対応するか、ご利用者やご家族の意向について、把握している方としていない方がおられる。協力医療機関の医師等とも方針の共有までには至っていない。	○	ご利用者、ご家族の意向を確認し、協力医療機関の医師と重度化した場合の方針の統一を図る必要があると思われる。まずは各関係者の方々と終末期に向けた方針を共有していくための、話し合いの場が持てるようになることを期待していきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員はご利用者の自尊心や羞恥心に配慮し、入浴や排泄の声かけはさりげなく行っている。指導的な言動を取るようなことはせず、ご利用者には尊敬の念を持って対応している。申し送りのインシヤルにて行い、事務室のドアを閉めるなどご利用者に聞こえないよう気をつけている。個人情報に関するメモ類は必ずシュレッダーにかけるなどしている。個人情報保護法について全職員は十分理解していないのではと管理者は思っている。	○	申し送りなどは、ご利用者に聞こえないよう配慮されているが、ご利用者に関する話を他のご利用者のおられる場所で話をしてしまうことがある。職員同士で注意しあったり、何が個人情報漏洩にあたるのか、勉強会等を通して話し合いをされてみてはいかがであろうか。今後の取り組みに期待していきたい。
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者の思いや時間を大切に職員は考えている。おしゃれのお好きなご利用者には美容室へお連れしたり、食事や入浴などの声かけは行うが無理強いはせずご利用者のその日の状態やお気持ちをお聞きしながら支援している。“どのように過ごしたい”と言う希望を表して頂けないご利用者には、表情や状態を伺いながら散歩にお誘いしたり、寄り添いながらお好きなDVDと一緒に観るなど支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	地域のお店に週2回、ご利用者は職員と共に食材の買出しに行かれている。足りない食材は配達などお願いしている。料理の得意なご利用者は、調理の下ごしらえから味付け、盛り付けまで手伝って下さり、職員を指導なさるなどお力を発揮されている。ご利用者は食べることが楽しみと言われテーブル拭きや食器並べなど積極的に準備に参加されておられる。ご利用者の誕生日にはお寿司の出勤を取ったり、時には外食に出かけるなどされている。		
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週4回、11時～17時半位までに、ご利用者の希望の時間に合わせて入浴して頂いている。入浴を好まないご利用者にも声かけなど工夫しながら週3回は入って頂いている。体調に無理のないように湯温や時間など考慮したうえで、可能な限りご利用者の希望に添うよう対応しつつ、個浴や同性介助など、ご利用者の羞恥心や恐怖心への配慮もされている。また、入浴を楽しんで頂くために、ゆず湯や入浴剤を使用するなどの工夫も行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理の下ごしらえや食器の後片付け、食器拭きに食材の買出し、洗濯物干しからたたみ物まで、ご利用者の力を発揮して頂いている。編み物や縫い物(刺し子・雑巾縫い)、クロスワードパズル、カラオケなど楽しんで頂いている。散歩のお好きなご利用者が多く、職員の提案で毎日の日課に散歩を盛り込み散歩を楽しまれておられる。	○	役割を持っていない方や、なにもすることがなく時間を持て余しておられるご利用者がおられると管理者は感じておられる。また、ご利用者が出来ることを職員が手を出し過ぎている場面も見られ、今後の課題として検討していきたい考えられている。ご利用者一人ひとりの力が発揮でき、張り合いや喜びのある生活が送れるように今後の取り組みに期待していきたい。
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居される前からの友人とお付き合いが続いておられるご利用者は、月に1度、定期的に外出をなさっておられる。健康のためにと、他のご利用者をお誘いしホームの周辺を散歩されることを日課とされているご利用者もおられる。職員とイオンモールに買い物に出かけたり、季節ごとの外出として、大宰府天満宮やイチゴ狩り、福岡タワー見学など、ご利用者の体調を考慮しつつ気分転換を図って頂いている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠は防犯上のため午後8時～午前7時までとなっていて、日中は施錠していない。職員は“鍵をかけていないことが当たり前”だと思っておられる。ご利用者が落ち着かれなくてお一人で外へ出られた場合でも、職員が同行することで対応している。日々の勤務の中でご利用者の行動を把握し、職員が連携し、声かけを徹底す	○	ホーム開設当初から、夜間以外鍵をかけたことがないため、鍵をかけない暮らしの本当の意味は理解していないのではないかと管理者は考えられている。職員育成のために意識付けするための勉強会を行いたいということで、今後の取り組みに期待していきたい。
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進会議において地区の区長様より、災害時には地区の公民館へ避難をされるよう、お言葉を頂いている。ホーム開設以来、消防訓練や避難訓練はまだ実施されていないが、地域の防災訓練の際参加させて頂くようお願いをしている。年内には消防署立会いのもと訓練を行う予定で、災害に備えての備品なども今後検討していく予定である。	○	災害に備えた避難訓練の必要性や備品の準備など、職員全員で検討され、実施に向けた取り組みに期待していきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その日の調理担当職員が、献立を考えている。食事の摂取量や飲水量は記録を行っている。栄養のバランスやカロリーの過不足については、栄養の専門的な観点からチェックはなされていないが、定期的な体重測定や血液検査に基づき、かかりつけ医からの助言を頂き、ご利用者の状態により、ご飯の量を調節したり散歩を多くして頂いている。飲み物はコーヒー・紅茶・ジュース・緑茶などご利用者のお好きなものを選んで頂き水分の補給に気をつけている。	○	食事のバランス等図れているとは言いがたいと管理者は感じておられる。食事の偏りや栄養バランスなど、専門の方に助言を頂いてはいいかがだろうか。今後の取り組みに期待していきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ち着いた玄関引き戸を入ると、リビングの入り口は自動ドアになっている。安全性に考慮され自動ドアの電源は入っていないが、手動で自由に開閉できるようになっている。生活感を味わって頂くよう和風の暖簾で自動ドアを目隠しされるなどの工夫がされている。広々としたリビングは、シンプルな中に落ち着いた色彩のソファが配置されていて、ご利用者がゆったりとくつろがれておられる。リビングの掃きだしからの日差しで室内は明るく、午後からはカーテンにて光の調整をされている。1日に1回は換気のため窓を開けて臭気にも気づかかっておられる。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	たんすやベット、カーテン、照明器具、クーラー等はホームの備え付けとなっている。管理者は、自宅にて使い慣れた寝具や家具など持って来て頂くようご家族にお願いしている。お部屋には絨毯にテーブルやいすなどの三点セットを置かれ、ご家族との思い出の写真やお位牌を持参されている。お部屋づくりをご家族とされ、ご利用者が居心地よく過ごせるよう工夫されておられる。		